

ワークショップの質問への回答

Question 10 (評価・テスト) (幡井先生より回答)

思考判断表現をみとるためにはそれをみとることのできる授業構成やワークシートが大切だと感じました。

教材研究をする際に思考・判断・表現をみとるためにどのような視点で工夫すればいいか聞きたいです。

また、知識・思考で A とは言えない(どちらも評価は B) が学びに向かう姿に大きく変容があった児童に対して学びに向かう力で A をつけるのはどうなのか聞きたいです。

Answer

どうしても 45 分の授業をどのように流すかということに捕らわれがちですが、目標を達成するために、どの段階でどのような言語活動を入れるのか、単元の流れを考えることが大切だと思います。単元構成のイメージを持つことで、どのようなワークシート(=足場掛けになるもの)が必要かも見えてくるのではないのでしょうか。

山田先生のお話にもありましたが、教科書を見る際に、クラスの児童と共有する目的や場面、状況に合わせて、その教材がそのまま使えるのか、それともマイナーチェンジをしなければ使えないのかという視点を持っておく必要があるかと思います。また、思・判・表を見取るためには、児童の思考のプロセスが可視化できるように、言語面や内容面でどのような変容をたどったのかが残るワークシートを作成すると良いと思います。

主体については単元を跨いで見取ることもあり得るため、その場合は知・技と思・判・表でどちらも B で、主体が A ということはあると思います。しかし、主体は単独で見取ることはなく、常に知・技や思・判・表とセットで見る形が基本形です。

Question 11-1 外国語活動 (大江先生より回答)

・近隣の市町村では、外国語活動の通知表の所見がなくなったとの話を聞きました。

最近では本校でも、授業参観ができないかわりに YouTube の限定公開で、授業の様子を定期的に配信しています。

例えば、外国語活動でも、全員の発表等を公開すれば、毎学期の所見にかわるものになるのではないかと考えます。(専科で、複数校の約 400 名の児童の顔を名前を一致させて一人一人所見を書くのは大変でした。)

Answer

→先進的な取組をされていて、とても勉強になります。児童が学習する様子を Youtube 等で見せ

ることは、家庭や地域との連携という点で意義がありますし、昨今学校を悩ませている感染症対策の一つの手段かと思います。

また、児童の評価場面を保護者と共有するという考え方も、通知表という考え方から一歩進んでいるのかもしれませんが。保護者にどのように説明責任を果たすか、通知表以外の有効な方法もあるのだと改めて感じました。保護者にどのように見せるか、という点には様々な点で注意が必要かと思いますが、児童一人一人が扱う ICT 端末を効果的に使うことで、そのハードルが下がってくるかもしれません。

Question 11-2 外国語活動（大江先生より回答）

・小学校低学年の外国語活動について、指導要領にも明記されていないのですが、どの時間にどのような内容でされているのでしょうか。

Answer

→自治体によって低学年の実施はまちまちですが、一例として京都市全体で行われている実践を紹介します。京都市では、今年度から、1年生は年間10時間（2単元）、2年生は年間15時間（3単元）を、「英語活動」という名称で実施しています（いわゆる余剰時間を利用しているという認識です）。どの単元でもゴールとなるコミュニケーション活動を設定し、最後のやり取りや発表ができるように様々な活動を積み重ねていく形で単元が形成されています。聞くことからスタートし、話すことへと少しずつ移行できるような単元の流れだと、児童が英語の音声に慣れ親しみやすく、最後のやり取りや発表で達成感を味わいやすくなります。また、歌や絵本などの教材は繰り返し表現が多く、楽しみながら何度も聞くことができるので、低学年の児童にも活用しやすい教材だと言えます。

Question 14（専科教員）（俣野先生より回答）

・評価における ALT との協働、または ALT の活用法について知りたいです。

本校では、専科教員が評価を担うことになっています。しかしながら、本校 ALT は独自採用で常駐のため、必要に応じて、指導に生かす評価、記録に残す評価の両方において補助的な役割を担ってもらっています。例えば、指導に生かす評価では、タブレット PC を通じて各児童が録音した課題を回収し、個々の音声を聞きながら言語材料がどの程度定着しているかを確認してもらうことができます。また、学期末のパフォーマンステストの際には、児童とやり取りをする相手となってもらい、個々の児童の様子を動画で記録したり、児童の良かった点等を報告したりしてもらうこともあります。あくまでも、本校の場合、評価者は専科教員ですが、同じ指導に関わる者として、互いに意見を交換しながら、よりよい指導と評価の在り方を模索しています。

・今年初めて専科になり、具体的評価基準がこれでよいのかと思考錯誤してきました。皆さんの具体的評価基準例を見せて頂けないでしょうか？

Answer 14

今年度、私が指導を担当した第5学年の3学期に使用した児童用ルーブリック(Crown Jr.5 Mt. Fuji is beautiful)を御紹介します。ただし、まだまだ試行錯誤の段階で、このようなかたちがよいというわけではありませんので、あくまで参考程度に留めていただければ幸いです。

本単元では単元の初めにルーブリックを児童と共有し、単元の中盤にルーブリック内の青字になっている箇所について、「詳しく」や「工夫」の中身を児童と一緒に検討する時間を設けました。

私の場合は、評価基準を設定しても実際に指導してみると、いろいろと課題が出てくるので、それをまた次へいかし修正をかけていくというかたちをとっております。

チャレンジタイム②		5年()組()番 名前()
力をはかるための項目		
①先生の質問を理解し、質問に答える。		
②おすすめの場所・理由を伝え、先生の行きたい場所を尋ねる。		
③自分の伝えたいことが伝わりやすい話し方で話す。(①②共通)		
先生からの質問の意味を理解したり、質問に答えたりすることは、まだ難しい。	先生からの質問の意味を理解して詳しく答えることができた。	先生からの質問の意味を理解し、 順番を工夫して 詳しく答えることができた。
おすすめの場所と理由を伝えたり、先生の行きたい場所を尋ねることは、まだ難しい。	おすすめの場所と理由を 詳しく 伝え、先生の行きたい場所も尋ねられた。	おすすめの場所と理由について 順番を工夫して 詳しく伝え、先生の行きたい場所も尋ねられた。
先生の反応を見ながら、聞き取りやすい速さで、はっきりと話すことは、まだ難しい。	メモを読まず 、先生の反応を見ながら、聞き取りやすい速さで、はっきりと話すことができた。	資料を活用し 、先生の反応を見ながら、聞き取りやすい速さで、はっきりと話すことができた。
達成まで あと少し	達成!	さらに 高い目標 達成!
<input type="checkbox"/> Nice try! 😊	<input type="checkbox"/> Good! 😊😊	<input type="checkbox"/> Wonderful! 😊😊😊

Question 14 (俣野先生より回答)

・初めて英語専科をするに当たって、準備しておくこととよいこと。

Answer 14

どのような環境・条件で英語専科としてお勤めになられるのかにもよりますが、私の場合(異動先で単独校勤務の専科となり、第1~5学年を担当)は、教材研究と児童理解に必要な情報を集めることから始めました。教材研究に関しては、各校で設定されている到達目標やカリキュラム、教材等を把握するところから始まるかと思えます。児童理解に関しては、各担任の先生方から学級の様子や配慮を要する児童等に関する情報を得たり、担当する多くの児童の顔と名前を一致させるために児童の顔写真をお借りしたりもしました。加えて、専科という立場上、専門性が求められることも多く、自身の専門性を高める必要性を日々痛感しております。時間的な余裕があれば、英語専科になられる前に、外国語教育について学ばれておくこともその後の実践の支えになるのではないかと思います。